



将来、化粧品会社で研究・開発に携わるにはどのような学科を選ばよいですか？  
また、そのような会社に就職している実績はありますか。



化粧品会社で研究・開発というと、かなり広い分野が当てはまります。材料・分析関係は化学でしょうし、安全性関係は医学・薬学・生物学がメインとなります。化粧品はイメージで売るところも大きいので色やデザインなどの美術的センスも必要ですし、理系のみで研究開発が行なわれるわけではありません。とはいえ、人員は化学系の学科の卒業した人が最も多いでしょうから、まずはここかと思います。当大学の理学部ですと化学科が相当します。

化学科では、すぐ浮かぶような有名な化粧品会社でもこれまでに何人も卒業生が就職しています。また、生物科学専攻でも、毎年数名が修士修了後に化粧品会社の研究・開発職に就職しています。ただ、化粧品会社で大きな研究・開発部門をもっているところは多くないと思われ、やはり化学メーカーの方が研究開発に携わる人数が圧倒的に多いので、化学科ではそちらに就職する学生が多いです。

どの学部を受験するか迷ったときは、大学に入ってから何を中心に学びたいかについて考えてみると良いでしょう。例えば薬学部では、基礎となる化学、生物学、物理学に加え、免疫学や薬理学、生化学なども学ぶことになるでしょう。大阪大学理学部では、化学科に入学しても、化学だけでなく数学、物理学、生物学、地学の基礎をまず学ぶことになります。大学や学部によって、学べることだけでなく出会う人も変わってくるでしょう。将来に対する考え方も変わるかもしれません。ホームページやオープンキャンパスなどでカリキュラムや学生生活等の情報を入手したり、在学生の話を聞いたり、雰囲気を感じるとして、志望校・学部を考えると良いでしょう。

なお、理学部の卒業生は、教育職や研究職に限らず、幅広い分野で国際的に活躍しています。理学部で身につけることのできる基礎知識、課題発見力、柔軟な発想力、的確な判断力などは、社会のどの分野でも求められる力です。